

# 新庁舎建設に関する 市民ワークショップ

## 第3回の様子

今回のワークショップでは、熊谷市にお住まいの18歳以上の方18名が参加され、活発な意見交換が行われました。

4つのグループにわかれ、これまでのワークショップのご意見等を踏まえた基本的な考え方(案)・導入機能(案)について確認しました。最後には全体で議論した内容を共有し、ワークショップを終えました。

開催日	2025年11月9日(日)
会場	熊谷市立商工会館
対象者	市内在住の18歳以上の方 18名
グループ	4グループ(各4~5名)



## グループワークのテーマ

### テーマ:基本的な考え方(案)・導入機能(案)の確認

- これまでの市民の皆さんの意見を踏まえてとりまとめ、基本計画に盛り込む予定の基本的な考え方(案)・導入機能(案)について、気づいた点はありますか？
- 庁舎での手続等について、一つの窓口でできると良いと思うものはありますか？  
例:転入・転出、介護、子育て、おくやみ等

■補足 | 基本的な考え方(案)・導入機能(案) ※構成のみ

### 市庁舎整備基本構想 (基本方針)

### 市庁舎整備基本計画 (導入機能)

基本方針1 誰にでも利用しやすい便利な庁舎	導入機能①わかりやすく使いやすい窓口・相談機能 導入機能②使いやすい窓口まわりの空間
基本方針2 誰にでも優しい庁舎	導入機能①ユニバーサルデザイン
基本方針3 多様な人が集まり活力と魅力のあふれる庁舎	導入機能①市民の憩いを受け入れる機能 導入機能②情報発信機能
基本方針4 機能的で柔軟な庁舎	導入機能①効率的で生産性の高い執務空間 導入機能②建替を契機としたDX導入
基本方針5 環境に配慮した庁舎	導入機能①ZEBの導入 導入機能②環境負荷低減技術の導入
基本方針6 安全・安心な庁舎	導入機能①災害対策本部の強化 導入機能②強靱な構造の確保 導入機能③セキュリティの強化

## 基本方針1「誰にでも利用しやすい便利な庁舎」

### ◆ 基本的考え方「手続の利便性」

#### ●窓口の集約・一本化

- ワンフロアストップ方式の採用やコンシェルジュの導入、おくやみ窓口などの窓口の一本化は基本方針にあるように進めてほしい。
- 導入機能②「使いやすい窓口まわりの空間」の「誰にとっても便利な窓口」にある「現在分散されている多数の窓口は、執務スペースから分離して集約し、共用の窓口スペースを開設」という考え方は、来庁者の移動が少なくて済み、時間省略にもつながり賛成である。

#### ●市民の利用実態

- 現在は、部、課別の窓口方式であるが、来訪者の手続や相談内容別の編成を検討してほしい。
- 現在の庁舎の総合案内は、事情を言えば、すぐどこにいけば良いと案内をしてくれてとても良い。基本方針1の「利便性が向上する仕組みの例」にコンシェルジュの配置とあるが、AIだけにせず現在の総合案内のような職員等によるコンシェルジュ機能も残してほしい。特に視覚障害者にとっては必要である。
- 手続のために市役所に行くのは市民課くらいだ。一般の市民が個人として色々な課に行く必要がある機会はあまりないと思う。葬儀の際でも手続は葬儀社がしてくれる。
- 行政サービスが向上するのは賛成だが、どのように移行していくのか。庁舎が新しくなって、同時に新しい窓口システムになって混乱しないように現庁舎でできることは先に導入しておいた方が良い。

#### ●事業者の利用実態

- 事業者が申請や手続をする際に、複数の部署に行かなくてはならず、場所が分かれていたりして大変だという話は聞く。どの課とどの課が近いと良いかということは、仕事で手続が必要な人に聞く方が良いのではないか。
- 一般市民だけでなく事業者への対応もワンストップになるとよい。建設関係をはじめモノをつくる事業者は、様々な部署への事前相談が必要となる。これが1箇所で行えるようになることで、ハード面の改善だけでなく庁内判断のスピードも早くなることを期待する。

#### ●配置

- 障害福祉課、長寿いきがい課は、同フロアで隣接していて連携がとれていて良いと思うが、災害時対応のことを考えると両課を危機管理課と同じフロアにできないだろうか。日頃、視覚障害者は防災ラジオが支給される危機管理課に行くことも多いし、災害弱者になるのは障害者や高齢者であるので、日頃から連携をしやすい同フロアにあってほしい。
- 現在4階にあるこども課・保育課と6階の学校、教育関係の部署は、同じフロアにあって良いと思う。子どもの成長過程でつながったほうが、市民もイメージしやすく行きやすい。

## 基本方針1「誰にでも利用しやすい便利な庁舎」

### ◆ 基本的考え方「窓口方式」

- 窓口・相談機能は、それぞれの方式に良い点、欠点があるために「この方式が良い」と一つに絞るのは難しい。職員派遣方式やワンフロアストップ方式等を組み合わせ、それぞれの良い点を活かしてハイブリッド型で進めてほしい。
- 建設関係の事業者は、職員派遣方式での対応が相談の時間短縮にもなるのでよい。
- 個人的にはこれまでに窓口をたらい回しにされたという経験がないので、職員派遣方式を採用する必要性をあまり感じない。職員の負担を増やし、生産性を低下させるような方式は無理にやらない方がよいと思う。

### ◆ 基本的考え方「DX化」

- 若い世代はWeb対応に慣れているので、将来的には来庁しなくても手続きできるような状況が進んでいくだろう。ワンフロア化をする必要性も感じていない。

### ◆ 基本的考え方「駐車場」

- 市庁舎に来る人のほとんどは車で来ると思う。駐車場を充実させることが重要だ。どうやって十分な台数を確保するのか。

## 基本方針2「誰にでも優しい庁舎」

### ◆基本的考え方「ユニバーサルデザイン」

#### ●カウンター、点字ブロック、音声案内等機能の配慮

- 車椅子利用者、高齢者、時間がかかる相談者などに対し、座って同じ目線の高さで対応できるカウンターがあるとよい。
- 接触感染を防ぐためにも足底で把握できる点字ブロックは、庁舎内にも設置してほしい。特に庁舎に入ってから障害者がよく利用する部署までは設置してほしい。
- つくば市役所は、駅から市役所まで点字ブロックがあり、その点字ブロックにあるQRコードを読み取ると音声で案内してくれるアプリにもつながる。足と音声の両方で案内があるのは視覚障害者にとっては心強いものなので、参考にしてほしい。音声は、外国語対応もできると良い。
- 視覚障害者のために音声案内も検討してほしい。特に視覚障害者の利用頻度が高い1階や障害関係の部署がある階のトイレ内は、必要だと思う。

#### ●トイレ

- 多目的トイレがあるが、おむつ替えの利用者が使用していると時間がかかり、高齢者で車いすの人だと待ちきれない時がある。車いす利用者が一般のトイレも利用できるような広さのトイレもひとつ整備してほしい。車いす利用がない時は一般の人が使用できるし、車いす利用者は、おむつ替えで待つ負担もなくなる。
- 多目的トイレにあるおむつ入れは、子ども用と大人用で分けるか大きくして欲しくないと思うので困ってしまう。そのあたりも配慮してほしい。

#### ●全般

- 昨今ではユニバーサルデザインやバリアフリーに配慮しないということはありません。プロが考えて設計するのだから、あまり詳しくない素人の市民は、その設計案を確認すれば十分だと思う。

### ◆基本的考え方「移動の円滑さ」

- 本館と駐車場の連絡通路はUDの観点からも傘なしで移動ができる空間にしたい。
- 駐車場棟は5階建ぐらいになると聞いているが、そうであれば、高齢者や障害者はもちろん一般市民にとっても、複数の階から庁舎棟へ行けるよう連絡通路をつくってほしい。
- 高階層の建物になった時、エレベーターの待ち時間が課題になりそうなので、解消されるようにしてほしい。場合によってはエスカレーターなども考えてほしい。

基本方針3「多様な人が集まり活力と魅力のあふれる庁舎」

◆ 基本的考え方「熊谷らしさ」

●文化、歴史

- 熊谷を文化都市にしてほしい。文化都市のアピールにつながる様なものが市庁舎の中にあるとよい。
- うちわ祭りは年に1回なので見られない人もいる。多目的空間には、いつでもうちわ祭りが見られるような展示があるとよいのではないか。
- 楽しい熊谷らしさを伝えることは想定しているようだが、熊谷には苦しい歴史もある。熊谷空襲は埼玉県で唯一でもある。被災地図なども庁舎に掲示して、歴史を広く伝えてほしい。市として平和を築く決意としても大切だ。
- 熊谷は宿場町の歴史もあるので、そうした要素を市庁舎でも表現してほしい。

●情報発信

- 新しい建物へ行くきっかけになるような熊谷の魅力ある展示などの情報発信ができるとういのではないか。
- 多目的空間は、見るだけの展示でなく触れることができるなど体験できる機能もあるとよい。

●スポーツ

- 市庁舎に大画面を設置して、パブリックビューイングでラグビー観戦をすることができれば、ラグビータウンのアピールにつながる。
- スポーツやイベントの情報発信を積極的に行ってほしい。まちぐるみでスポーツなどを応援する拠点として、せつかくまちなかに市庁舎があるのであれば、活用したい。
- ラグビーが熊谷らしさと言うがまだまだ市民に根付いていないとは言い難い。情報が行き渡っていない。「ラグビータウン」になるためには、市全体としてのPR構想、戦略を持つ必要があるだろう。その上での市庁舎の役割を考えるべきだ。

●全般

- 熊谷らしさは人にとってそれぞれ異なる。すべてを市庁舎に盛り込むのは難しいので、焦点の絞り込みは必要だろう。
- 深谷市は赤レンガや渋沢栄一を上手くアピールしている。市庁舎にも赤レンガを生かしていて、総合的に考えていると思う。
- 熊谷のシンボルとなる建物になると同時に、周辺との融合も大切だ。高城神社を生かした風情があり、日よけなどのデザインを周辺と統一して、街の統一性を生むシンボリックな建物になるとよい。
- 県北の拠点となるような魅力ある建物、そして熊谷市のシンボルとなる高さのある建物になるとよい。

## 基本方針3「多様な人が集まり活力と魅力のあふれる庁舎」

### ◆ 基本的考え方「市民の憩いの場」

- 市民が使いやすい空間であることが一番大切だと思う。屋内外に市民の憩いの場、憩うことのできる機能を設けてほしい。
- 市民が気楽に行ける、待ち合わせができるような使いやすい建物になるとよい。
- 最上階と1階には飲食もあり、市民がくつろいだり話したり集まったりできる場になるとよい。
- Wifiを利用して、おとなも子どもも調べ物をしたり、自習できるような空間があるとよい。
- 図書館の自習スペースはすぐ埋まってしまうので、新庁舎にも、子どもが過ごせる機能や中高生の居場所になるような空間が欲しい。
- 市役所と県施設だけでは憩いのある、魅力的な場所にはなりづらい。民間施設の誘致、スペースの貸し出しなど、民間活力を生かした魅力づくりが必要だ。

### ◆ 基本的考え方「市民サービス」

- 現庁舎に打合せに来ることがあるが、会議室が足りない状況なので、新庁舎には大中小様々な会議室をつくり、会議がしやすくなるとよい。
- 職員や市の業務に利用するだけでなく、市民も借りることができる会議室を確保してほしい。
- DX化による図書館的機能をつくり、タブレットで様々な本が読めるような空間があると、気軽に本に接することができるのではないか。
- 市立図書館で借りた書籍の受け取りや返却を市庁舎でもできるようにして、身近な市民サービスの拠点にしてほしい。
- 子育て世代が子どもと一緒に来て動きやすいように、乳幼児用キッズスペースだけでなく、小学生以上の子どもがいられる空間があるとよい。
- 現在も使えるが、市民も利用できる食堂を市庁舎に確保してほしい。
- 防災の情報発信機能は、見るだけでなく体験できることが大切だと思う。災害時のトイレ体験ができる空間があるとよい。

基本方針4「機能的で柔軟な庁舎」

◆ 基本的考え方「執務空間」

- ①効率的で生産性の高い執務空間は、フリーデスクでパーソナルロッカーさえあれば、とても効率的で良い考え方だと思う。市民にとっても開かれた空間になるのではないか。

基本方針5「環境に配慮した庁舎」

◆ 基本的考え方「再生エネルギー」

- 前回(第2回)ワークショップで、ペロブスカイト太陽電池(次世代太陽電池)の普及・実用化について、国や地方自治体が政策的に推進し始めているので、熊谷市も推進に取り組むべきと意見を述べたのだが、盛り込まれていないようだ。盛り込んでほしい。

◆ 基本的考え方「グリーンインフラ」

- 「基本的な考え方」にはグリーンインフラが記載されているが、導入機能には反映されていないように思う。グリーンインフラは敷地内緑化にとどまらない。景観形成や生態系、防災などの要素もある。暑い熊谷らしさとして、グリーンインフラをもっと積極的に盛り込んでほしい。
- 市庁舎が先導役を担うようにグリーンインフラなど環境配慮の最新技術を取り込み、情報を集積させ、その成果を発信させるスタンスをもってほしい。

## ご意見

### 基本方針6「安全・安心な庁舎」

#### ◆ 基本的考え方「セキュリティ対策」

- 防犯対策に力を入れてほしい。不審者が入ってこないようにするためのセキュリティの強化だけでなく、もし不審者が進入してしまった場合の対応策も並行して考えてほしい。
- ハッカー対策に力を入れ、情報漏洩がないように個人情報の管理は徹底してほしい。
- セキュリティ強化は、ハードが中心となっているが、ハッカーからの対応を含めてシステムがダウンしない方法を考えてほしい。

#### ◆ 基本的考え方「防災」

- 災害後の復旧計画は新たに考えたり、バージョンアップするのか。計画書はあるのか。それを踏まえた上で市庁舎の計画も考えるべきだと思う。

## ご意見

## その他

### 「県との調整」

- 県の施設との棲み分けや共同で使える機能など、どのように話し合っていていくのか。
- 県との調整がどうなるのかが見えないのが心配。市の裁量がどこまでかが知りたい。
- 県との合同庁舎になることで県との調整もあり、市庁舎単体での検討より自由度が下がるのではないかな。
- 熊谷らしさを市庁舎に盛り込むには県との調整によりそうだ。市庁舎建設にあたっては、市と県が対等に折衝できるようにしてほしい。
- 市と県の施設配置など、関係性を考えるのは県との協議が必要だろう。そのプロセスを市民に対して公開してほしい。

### 「跡地活用」

- 跡地活用についても基本計画に入れておくのがよい。更地にして市外の住民に宅地分譲してはどうか。人口が増えれば、税金の増加にもつながる。
- 跡地利用については、制限や条件をつけて、市民生活に不利益がないようにしてほしい。

### 「周辺整備」

- 中央公園、現市役所周辺などは、手続き等含め時間がかかる「再開発事業」によるのではない「再整備事業」を進められるとよいと思う。

### 「意見反映」

- グリーンインフラ以外にも、「基本的な考え方」から導入機能に反映されていない点があるのではないかと感じた。

## ご意見

## その他

### 「その他」

- 立地はまだ決まっていないと聞いている。将来の人口減少を踏まえると、新しい庁舎を作るのではなく現庁舎をリフォームしてこのまま使い続けてはどうか。空いている江南の分庁舎も活用できるだろう。
- 住民票などシンプルな窓口サービス機能は今の分庁舎(大里庁舎、妻沼庁舎、江南庁舎)に残したほうがよいと思うのだが、どうになってしまうのか。
- 少子化が進む中、将来の人口規模を踏まえて市庁舎の規模を計画しているのか。
- 熊谷市では市街地の人口は増えているが、周辺地域が減少しているので、市全体では人口が減っている状況だ。それが問題になっていると思う。
- 市庁舎が新しくなることで、子育て世代へのアピールにつながり、人口の増加に寄与できるとよい。
- 災害情報を室内でもキャッチできるよう防災ラジオの提供をしてほしい。
- 県主体ではあるが、市内には市民病院もないことから、看護師養成機能が市内にできることは期待したい。市民にアピールできるようにして明記してほしい。
- 基本計画の中に、医療介護の重要についての考え方が読み取れない。
- 働きやすい、子育てしやすい、学びやすい、高齢者にやさしいということを実現するためには人育てになる。それを実現できる部署を実現してほしい。